



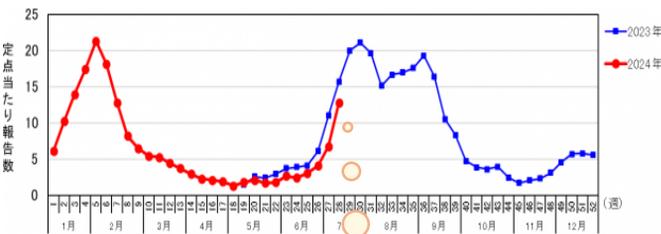
令和6年8月1日発行

夏風邪は子どもだけじゃない！！ 夏の感染症

夏によくみられるウイルス性の感染症のことを夏風邪といいます。特に、ヘルパンギーナ、手足口病、咽頭結膜熱は子どもの三大夏風邪とも言われます。近年は新型コロナウイルス感染症やRSウイルス感染症が夏にも流行する傾向があります。

ヘルパンギーナ	突然発熱 (39°C以上) し、のどの痛みが出ます。 のどに赤い発疹ができ、水疱となった後で潰瘍になります。	
手足口病	口の中や手、足などに痛みのある数mmの水疱ができます。 発熱は高熱でないことが多く、通常1~3日で解熱します。 乳幼児に多いですが、大人がかかると重症化しやすいです。	
咽頭結膜熱 (プール熱)	発熱や目の充血 (結膜炎)、のどの痛みなどが起こります。 症状は3~7日程度続きます。 プールを介した流行も多いため、プール熱とも呼ばれます。	
新型コロナウイルス感染症	発熱やのどの痛み、咳や鼻水などがみられます。 高齢者や持病のある人では重症化しやすいといわれます。 ウイルスの変異により、すでに感染したことのある人が再び感染することもあるため、気を付けましょう。	
RSウイルス感染症	発熱や鼻水、咳などの風邪のような症状がみられます。 年長児や大人では軽症のことも多いですが、乳幼児や高齢者では重症化し、入院することもあります。	

新型コロナウイルス感染症 週別患者発生状況 (愛媛県)



出典：愛媛県感染症情報センター

7月に入って、昨年 (2023年) と同様に発生の報告数が増えています。注意しましょう！

高齢者の感染に注意！

高齢者では感染が長引いて重症化したり肺炎などの重篤な病気を併発することもあります。免疫力が低下すると発熱などの症状が出にくくなり、気づかいうちに症状が進行したり周囲に感染を広げたりすることもあるため、注意が必要です。帰省や訪問で高齢者と接する若い人も周囲の人に感染症をうつさないよう注意しましょう。

夏の感染症を防ぐために

○感染対策について

夏に流行する感染症を防ぐためには、「マスクの着用を含めた咳エチケット」や「手洗い (手指消毒)」、「換気」等が効果的です。また、医療機関や高齢者施設等の訪問時など、高齢者や免疫の弱い人と接するときにもマスクの着用が効果的です。

○外出先での感染に注意

夏は旅行や帰省など、普段生活している地域以外の場所に出かける機会も増えます。訪問先の感染症の流行情報を確認し、感染に気を付けましょう。また、普段と違う環境では疲れて免疫力が低下したり、体調不良に気付くのが遅れたりすることもあるので注意が必要です。

感染症だけでなく、熱中症対策も忘れずに

夏は夏風邪などの感染症だけでなく、熱中症にも注意が必要です。屋外だけでなく、**室内でも熱中症になる可能性がある**ので注意してください。



適切な予防をして **熱中症を防ぎましょう!**



その症状は熱中症？ 感染症の症状かも...？

○熱中症の症状

- ・頭痛
- ・めまい
- ・体のだるさ
- ・吐き気
- ・体のほてり
- など



熱中症になると、様々な症状がみられます。熱中症に特徴的な症状だけでなく、感染症と同じような症状が出る場合があります。水分をとって、涼しい場所で過ごしても改善しない場合には、熱中症だけでなく、感染症の可能性も考えましょう。

体調が悪く感じたら、早めに相談を

夏に体調不良となる原因は、様々です。熱中症だと思っていたら、新型コロナウイルス感染症だったというような例もあります。

体調が悪く感じたら、無理はせず、**早めにかかりつけ医に相談**するようにしましょう。

熱中症対策と感染症対策をしっかりと行い、元気に夏を乗り切りましょう。



参考：「学校、幼稚園、認定こども園、保育所において予防すべき感染症の解説」
日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会 2024年5月改訂版

過去の応援レターもホームページに掲載しています!気になる方は、ぜひホームページへ!

URL: <https://www.pref.ehime.jp/page/74891.html>



QRコードは
コチラ!

